

吉敷には中原中也もいる。～ハーモニカ交流の可能性～

大野将平、澤山保羅、成瀬仁蔵、服部章蔵、所郁太郎・・

吉敷、良城小、憲章館に関係する人物は数多く、授業で教材・話題にされていると思います



が、中原中也も吉敷と縁の深い人物です。中也の墓は吉敷郵便局の西側にあり、命日の10月22日(昭和12年)も多くのファンが訪れ、テレビのニュースにもなっていました。

中也は、湯田温泉生まれで、山口付属小、付属中(現山口高校)在籍の後、京都に引っ越しています。最後は、30歳で東京で亡くなっていますが、中原家が明治維新まで吉敷に家があったことから、吉敷の墓に納骨されています。

幼い時期を山口で過ごした中也は、裏面のよう吉敷の風景も詩に表しています。

このように、中也も良城(吉敷)だからこそその人材で、学校教育にも是非活用したいと思っていましたが、なかなかそのきっかけが見つかりませんでした。

その願いは通じるものですね。先ほど、中原中也の実の弟さんの意志を継ぐ吉本さゆりさんという赤田の方から電話がありました。

吉本さんは、山口県ハーモニカクラブのメンバーで、吉敷地域でもハーモニカの演奏を楽しむ活動を月に4回交流センターで行ってられるそうです。

中也の実の弟の拾郎(じゅうろう)さんは、『ウィキペディア(Wikipedia)』によると、「結婚後姓を変え「伊藤拾郎」となる。広告会社勤務の傍ら、ハーモニカ奏者として活動。日本ハーモニカ芸術協会理事も務めた。」とあります。

伊藤さんは、昭和61年に国際ハーモニカテープコンテストで優勝するなど、世界的に有名なハーモニカ奏者だったそうです。

赤田の吉本さんは、伊藤拾郎さんのお膝元の良城小学校の子ども達に、是非、ハーモニカの音色を聴いてほしい、その魅力を

知ってほしいという思いから、本日電話をされたということです。

楽たま通信前号・かわら版今月号で、地域の方々の得意分野を生かした交流について記したばかりだったので、まさに願ったり叶ったりの電話でした。

音楽の授業では難しいと思いますが、まずは、昼休みの自由参加演奏会を行ってもらって、興味を持った児童が昼休みに一緒に吹き方を教えてもらうなどの交流を始めたらどうかと思っています。

学校を公民館活動のような場の一つとしても活用する取組は、県内の多くの学校で始まっています。このお話は、本校の取組のきっかけになる絶好の機会です。

来週、改めて吉本さん達が来校されますので、いろいろお話を伺いたいと思います。

昨日、学校裏の吉敷地域交流の館「ららら」で、子育て中の方々の集まりがあり、平山養護教諭と宮本栄養教諭が参加しました。

らららでは、就学前の母親が定期的に集まって子育ての不安を和らげる取組が行われており、この集まりもその一つです。スタッフは、本校の保護者も多く加わっておられるようです。

この日は、スタッフを含めて10名程度の方が集まれ、子育ての不安(偏食、夜寝ない等)や小学校入学への不安などについて、大変和やかな雰囲気でお話が弾んだそうです。このような会に、小学校として参加(参画)することで、地域の小学校への信頼度が一層高まっていくと思います。本務に影響のない範囲で、進めてもらいたいと思います。

12月には、さらに教頭先生や浦さんも参加する子育て活動があるそうです。

学校の直接的な地域貢献が少しずつ進むことに感謝しています。

「一つのメルヘン」

秋の夜は、はるかの彼方に、
小石ばかりの、河原があつて、
それに陽は、さらさらと
さらさらと射してゐるのであります。

陽といつても、まるで硃石か何かのやうで、
非常な個体の粉末のやうで、
さればこそ、さらさらと
かすかな音を立ててもゐるのでした。

さて小石の上に、今しも一つの蝶がとまり、
淡い、それでみてくつきりとした
影を落としてゐるのでした。

やがてその蝶がみえなくなると、いつのまにか、
今迄流れてもみなかつた川床に、水は
さらさらと、さらさらと流れてゐるのであります……

「蝉」

蝉が鳴いてゐる、蝉が鳴いてゐる
蝉が鳴いてゐるほかになんにもない！
うつらうつらと僕はする
……風もある……

松林を透いて空が見える
うつらうつらと僕はする。

『いいや、さうぢやない、さうぢやない！』と
彼が云ふ

『ちがつてゐるよ』と僕が云ふ

『いいや、いいや！』と彼が云ふ

「ちがつてゐるよ」と僕が云ふ

と、目が覚める、と、彼はとつづくに死んだ奴な
んだ

それから彼の永眠してゐる、墓場のことなぞ
目に浮ぶ……

それは中国のとある田舎の、水無河原(みづ
なしがはら)といふ

雨の日のほか水のない

伝説付の川のほとり、

藪蔭の土砂帯の小さな墓場、

——そこにも蝉は鳴いてゐるだろ

チラチラ夕陽も射してゐるだろ……

蝉が鳴いてゐる、蝉が鳴いてゐる
蝉が鳴いてゐるほかになんにもない！

僕の怠惰？ 僕は『怠惰』か？

僕は僕を何とも思はぬ！

蝉が鳴いてゐる、蝉が鳴いてゐる

蝉が鳴いてゐるほかになんにもない！

